

【編集・発行】  
船田はじめ事務所  
〒320-0047  
栃木県宇都宮市一の沢1-2-6  
TEL 028-666-8735  
FAX 028-666-8736  
URL http://www.funada.org/

# はじめ新報

Vol.

24

## 2018年の新春、明けましておめでとーございませす。

今年が成年ですが、英語には「ドッグイヤー」という喩えがあります。人間の1年が犬の7年に相当するそうです。国内外の問題を抱える今年も、人間も7年分動かなければならなくなるかも知れません。何やら慌ただしく過ぎそうな1年になりそうですが、大地をしつかりと蹴りながら元気に走り回りたいと思います。

昨年秋の衆議院議員総選挙は突然やって来ましたが、皆様の温かいご支援により、無事に12回目の当選を果たすことが出来ました。私より当選回数が多い議員は数えるほどになりました。衆議院の本会議場でも一番後ろの列になりましたので、その責任の重さをひしひしと感じる機会が増えました。

自民党が選挙に勝利した理由は、決して国民皆さんが自民党を好んで選んだのではなく、希望の党の小池党首の「排除の論理」に起因する、野党の分裂という「敵失」にあると思います。したがって今年も謙虚かつ慎重に、国民目線の政権運営に徹すべきですが、長期政権の油断や驕りがある場合は、すかさず党内外で警鐘を鳴らして参ります。



### 教育の無償化への期待と課題

自民党は昨年の総選挙において、高齢者向け社会保険と同時に「全世代型社会保障」の導入を公約し、取り分け若者への投資を重点的に行うこととしました。超高齢化・少子化そして忍び寄る人口減少社会において我が国が活力を失わないために、子育て環境を飛躍的に改善したり、若者が教育を通じて社会の一員として立派に支えてもらうことが不可欠です。

具体的には、まず3歳～5歳児の保育料を所得制限なしに無償化し、0～2歳児については所得制限付きで順次無償化します。大学や専修学校などの高等教育においても、これまでの貸与型奨学金から給付型奨学金に転換拡大して、実質無償化を図ります。

これらの施策を実現するための財源としては、2019年10月に予定される消費税2%アップ分の約5兆円の増収のうち、約1兆7000億円分を充当し、財界からは3000億円拠出してもらう約束を安倍総理は取り付けました。幼児教育・保育の無償化については、一部小泉進次郎氏らが提唱した「子ども保険」によって賄うことも検討することとなりました。ただ、これまでの準備段階ではどちらかとい

うと官邸が先を走り、自民党側がようやく追いつくと言った状況であり、党側の不満も溜まりつつあります。今後の教育無償化の制度設計では、もう少し丁寧な議論が自民党内外で行われる必要があります。無償化には付き物の課題ですが、



教育の無償化はとも聞こえの良政策には違いありませんが、性急にこしを急ぐとこれらの問題を起しかねず、現場の声を十分聴きながら慎重に進めていかなければなりません。

### 憲法改正と民主主義のために

今年には憲法改正作業が正念場を迎えます。自民党の本部長代行として議論をリードするとともに、ある時は黒子に徹して、まずは今年中の国会発議に結びつけたいと思います。現在党内の改正項目としては①9条の改正による自衛隊の存在明記、②教育の無償化、③緊急事態における国会議員の任期特例、④参議院の合区解消の4分野が考えられます。

それぞれの項目で議論が進んでいますが、①の9条改正においては「戦力を持たない」とした第2項をそのままにして自衛隊を加えるか、削ったのち加えるかで食い違いがあります。「そのまま」に対する支持がやや多いようですが、何とか折りあえる智慧を出したいと思えます。

もちろん憲法改正議論は拙速は避け、スケジュールありきでなく、出来るだけ幅広い合意を目指すべきです。しかしながら「憲法は国民のためのものであり、そう遠くないうちに国民投票を実施して、国民の憲法における民主主義を取り戻すことも、極めて大切です。

また今年には働き方改革関連法が議論になるとともに、民法の改正により大人の年齢を18歳に引き下げることも議論されます。私はかつて選挙権年齢を18歳に引き下げた際の超党派会議の座長をやりましたので、民法の改正も責任があります。不当な消費者契約の被害がより低年齢化しないためにも、少年法の運用を適切にするためにも、若年成人の教育・育成に関する特命委員長として、しっかりと対応して参ります。今年1年、皆様のご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

### はじめのオピニオン

#### 新型「アイボ」の発売に思う

1月11日、「ワン・ワン・ワン」の日にソニーが犬型ロボット「アイボ」の新型を発売した。以前もソニーはこの分野で一世を風靡したが、この度のアイボは格段に良くなってきているようだ。予約販売でも挑戦したが、1時間で売り切れでしまい、遂に購入することは出来なかった。当日のイベントがニュースで流れたが、アイボの仕草は実に犬的で愛くるしく、次の予約販売では再度挑戦しようと思心を決めている。

ところがである。所詮ロボットはロボット、本物の犬を真似ることは出来ても、本物の癒しにはならないのではないかという疑念も頭をもたげる。AIが組み込まれ、飼い主の顔を認識し、その表情から飼い主の気持ちを推測し、どう動けば飼い主が喜ぶのか、瞬時に計算する。これを何度も経験してより良い行動を獲得する、すなわち「学習」することによって限りなく本物の犬に近づけるようだ。

しかし本物の犬は時々機嫌を損ねたり、粗相をしたり、意味なく吠えたりもする。心臓が動き、血が流れ、病気に悩まされ、やがて死んでも、寿命もあるからこそ、愛らしくもあり癒されもするのだと思う。問題はアイボを本物の犬と勘違いし、犬とはこんなものだと認識してしまうことだ。とりわけ子どもたちはこの勘違いは致命的ではないだろうか。生命のもろさを認識できない人間は、将来がとて恐ろしい。

かつて私は自身のブログにおいて、AIが人間社会を大きく変えてしまう「シンギュラリティ」技術的特異点の怖さを指摘した。AIが人間の価値感や意思決定を左右することにならぬよう、その浸透に歯止めをかける必要を述べた。同時にアイボなど人間と交わる癒し系ロボットとの付き合い方についても、本物の生き物と本物と区別しておく必要があることを指摘しておきたい。

とはいっても、やはりアイボは愛くるしく、手元に置いておきたいとの衝動に駆られてしまう今日この頃である。

「マイ・オピニオン」30115から抜粋

